平成31年 1月

蝶野郁世　学位論文審査要旨

主　査　　久　留　一　郎
副主査　　山　崎　　章
同　　井　上　幸　次

主論文

High interleukin-8 level in aqueous humor is associated with poor prognosis in eyes with open angle glaucoma and neovascular glaucoma

（房水のインターロイキン8高値は開放隅角緑内障と血管新生緑内障の予後不良に関連する）

（著者：蝶野郁世、宮崎大、三宅瞳、小松直樹、江原二三枝、永瀬大輔、川本由紀美、清水由美子、出田隆一、井上幸次）

平成30年　Scientific Reports　DOI:10.1038/s41598-018-32725-3

参考論文

1. Eye-shadow particles under a laser in situ keratomileusis flap following corneal trauma

（角膜外傷に続発したレーザー角膜内切削形成術フラップ下へのアイシャドウ粒子）

（著者：前田郁世、宮崎大、清水好恵、武田佐智子、井上幸次、清水正紀）

平成21年　Japanese Journal of Ophthalmology　53巻　64頁～65頁

2. 周辺部角膜潰瘍を契機に顕微鏡的多発血管炎の診断に至った1例

（著者：蝶野郁世、宮崎大、井上幸次、唐下千寿、高田美樹）

平成26年　眼科臨床紀要　7巻　352頁～356頁

3. 両眼の網膜中心動脈閉塞症を契機に発見された肺小細胞癌の1例

（著者：馬場高志、蝶野郁世、山﨑厚志、岡崎亮太、山本章裕、瀧川洋史、井上幸次）

平成27年　臨床眼科　69巻　355頁～360頁

審　査　結　果　の　要　旨

本研究は、開放隅角緑内障、落屑緑内障、新生血管緑内障患者の前房水に含まれる炎症性サイトカイン濃度を測定し、眼圧、視野などの臨床的指標や濾過手術後の予後との関連を検討したものである。その結果、特に落屑緑内障群で、IL-8は術前眼圧、術前視野と有意に関連しており、また、３つの緑内障タイプのいずれにおいてもIL-8のみが手術予後不良と関連していた。本論文の内容は、前房水IL-8の上昇が、緑内障の治療、手術予後に対して明らかな危険因子であることを示し、IL-8が手術予後を改善するための治療標的候補となる可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。